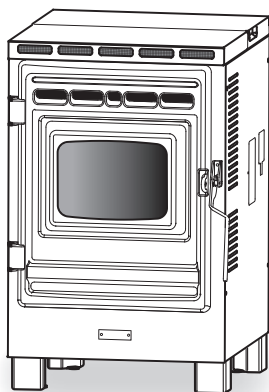
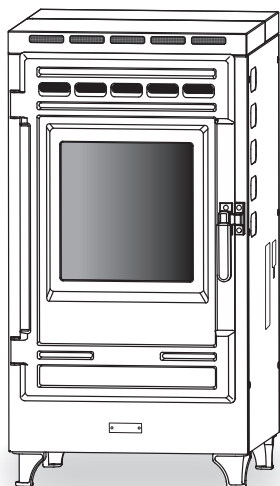


SS-5



SS-5 Plus



SS-10

ペレットストーブ SSシリーズ 取扱説明書

2024_8

もくじ

P

■安全のために必ずお守りいただくこと	1~4
■各部のなまえ	5
1.内容物	6
2.内容物取り付け方法	6
■木質ペレット燃料について	7
■安全装置	8
1.感震自動消火装置	
2.過熱防止装置	
■設置後初めて使用する前に必ずご確認ください	9
■ご使用前の確認と準備	10
1.着火前のストーブのお手入れ	
2.排気出口の確認	
3.燃料供給	
4.感震自動消火装置の確認	
■ご使用方法	
1.着火方法	11
2.はじめは大きく燃焼してください	11
3.温度調整方法	12
4.消火方法	12
■お手入れ方法	
1.シーズン中のお手入れ	13~14
2.シーズン終わりのお手入れ	15~16
■故障かな?	17~18
■安全・快適にご使用を続けるために	
1.販売店による定期点検	19
2.消耗品、補修用性能部品の交換	19
3.着火時に注意するポイント	20
4.お手入れ時に必ず実行していただくこと	20
■製品仕様	21
■製品保証	22

■安全のために必ずお守りいただくこと

お使いになる人や他の人への危害、物的損害を未然に防ぐために必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される内容です。
 警告	この表示の欄は、人が死亡、重傷などを負う可能性、または火災の可能性が想定される内容です。
 注意	この表示の欄は、人が傷害を負う可能性や物的損害の可能性が想定される内容です。

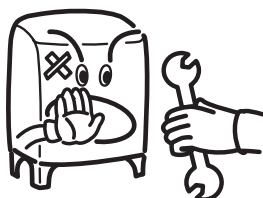
お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。

危険

⊖ 改造使用禁止

改造して使用しないでください。
また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けたり、他の目的で使用しないでください。火災や排ガスが室内に漏れる原因となります。
保証対象になりません。



⊖ 木質ペレット燃料以外の使用厳禁

燃料タンク内には木質ペレット燃料以外の固形燃料や液体燃料は絶対に入れないでください。火災の原因になります。



⊖ お客様ご自身での設置厳禁

お客様ご自身での設置工事や、移設工事は火災や事故の原因となり大変危険です。
設置工事や移設工事は必ず弊社指定販売店へご依頼ください。



警告

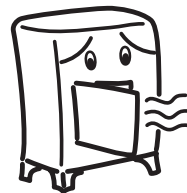
⊗ 燃焼中の燃料タンクふた解放厳禁

燃料タンクふたを開けたまま燃焼しないでください。正常な燃焼ができず火災の原因になります。



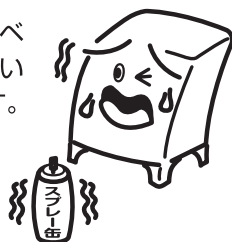
⊗ 燃焼中の扉解放厳禁

燃焼中は扉を絶対に解放しないでください。やけどや火災の原因になります。



⊗ スプレー缶厳禁

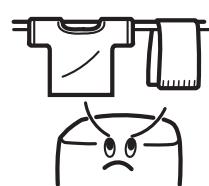
スプレー缶、カセットコンロボンベなどを、ストーブ周辺に放置しないでください。爆発の危険があります。



⊗ 衣類の乾燥厳禁

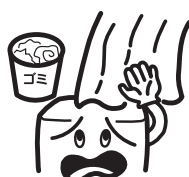
ストーブ上部、ストーブ本体に衣類をかけないでください。火災の原因になります。

ストーブガード等でストーブを囲い、衣類等を乾燥することも同様です。



⊗ カーテン・可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。火災の原因になります。



⊗ 温風吹き出し口、吸気口をふさがない

ストーブの前に障害物を置いたり、本体天面・側面にある吸気口をふさがないでください。異常燃焼や火災の原因になります。



⚠ かん合部の外れ危険

扉や、燃料タンクふたなどが確実に取り付けられていない状態で使用すると排ガスが室内に漏れて危険です。



⚠ 給排気筒外れ危険

給排気筒が外れた状態で使用しないでください。排ガスが室内に漏れて危険です。



⚠ 給排気筒排気出口の閉そく危険

給排気筒出口が障害物でふさがれたまま使用しないでください。異常燃焼の原因になり、排ガスが室内に漏れて危険です。



⊗ 給排気筒排気出口の可燃物近接禁止

給排気筒出口先端の近くに、灯油や可燃物、引火のおそれがあるものを置かないでください。火災の原因になります。



⚠ 注意

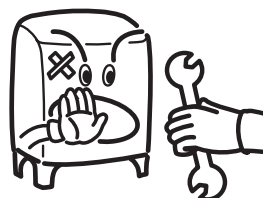
⊖ 異常時使用禁止

におい、ススの発生、炎の色、警報ブザーを繰り返すなど異常を感じたときは電源スイッチを「OFF」にし、設置販売店へご連絡ください。



⊖ 分解修理禁止

故障、破損したら使用をやめ、設置販売店へご連絡ください。お客様ご自身での修理や、弊社指定販売店以外による不完全な修理は危険です。



⊖ 指や異物を入れない

温風吹き出し口や、炉内に異物を入れないでください。発煙、発火、故障の原因となります。



⊖ 高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、やけどの危険があるので高温部（ストーブ扉、温風吹き出し口、給排気筒出口先端）に絶対に触れないでください。



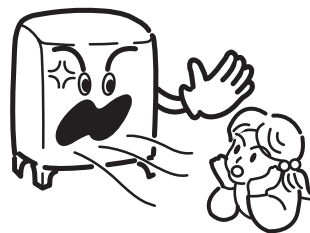
⊖ 人のいない場所では使用しない

人のいない、乾燥室、温室、飼育室などで絶対に使用しないでください。



⊖ 温風に長時間あたらない

直接、長時間温風にあたると低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。特にお子様や、お年寄り、体の不自由な方はご注意ください。



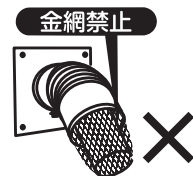
⊖ 腰をかけたり、物をのせない

ストーブの上に腰をかけたり、水の入った容器をのせないでください。故障や感電、やけどのおそれがあります。



⊖ 給排気筒出口先端に、金網など排気をさまたげるものを付けない

給排気筒出口先端に、金網や排気をさまたげるものをつけないでください。異常燃焼の原因になり排ガスが室内に漏れるおそれがあります。



❗ 外出する時は消火

外出のときは必ず電源を「OFF」にして消火してください。

❗ 就寝前は消火

就寝前は必ず電源を「OFF」にして消火してください。

⚠ 電源の注意

🔌 電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。



👤 めれた手で電源の抜き差しはしない

感電のおそれがありますので、めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

❗ 電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜きホコリ等を乾いた布でふきとってください。電源プラグにホコリ等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因となります。

🔌 電源コードを傷めない

電源コードに無理な力をくわえたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときはコードを持って引き抜かないでください。傷んだまま使用すると、火災や感電のおそれがあります。



🔌 長時間使用しないときは電源プラグを抜く

火災や予想しない事故のおそれがあります。

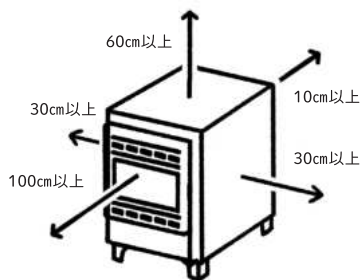
🔌 コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると発熱により発火のおそれがあります。

⚠ 可燃物との離隔距離

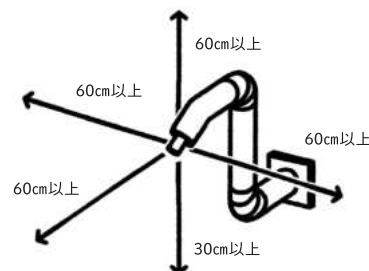
室内

ストーブから周囲の可燃物までは、図に示すように離してください。



室外

排気出口から周囲の可燃物までは、図に示すように離してください。



⚠ 設置後の環境変化に注意

環境の変化

- 🚫 排気出口を囲うような増築は禁止
 - ・サンルーム
 - ・ウッドデッキ等
- ⚠ 排気出口のそばの樹木が大きくなる
- ⚠ 隣家の壁が排気出口に接近
- ⚠ 周辺の建設により風向きが変わった

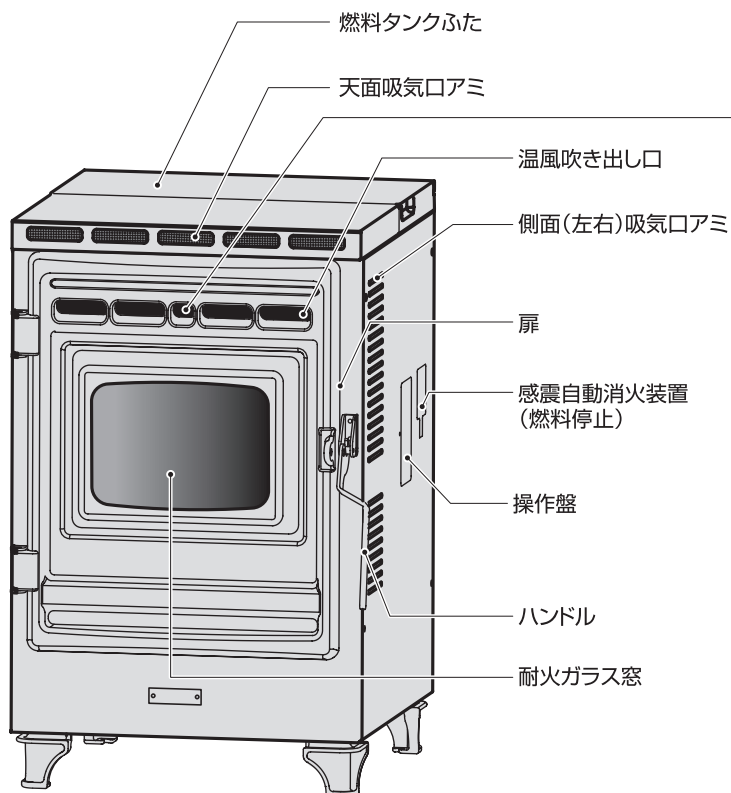
燃焼状態の変化

排気出口がふさがれたり、風通りが悪くなることによって燃焼不良となり、黒煙が大量に出たり、ススで壁が汚れたり、不完全燃焼になりやすくなります。

このような場合はお買い求めの販売店へご相談ください。

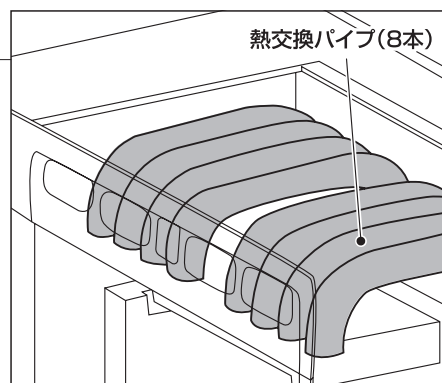
■各部のなまえ

※SS-5・SS-5 Plus・SS-10ともに部品構成は同じです。

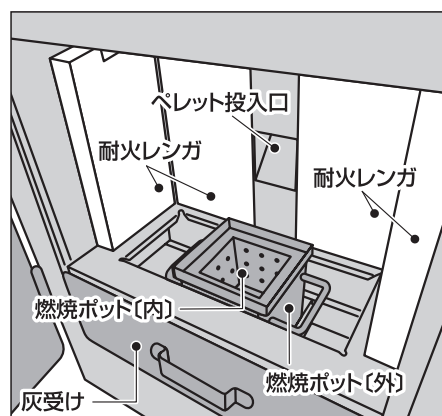


※イラストはSS-5です。
※SS-10のみ給気レバーがあります。

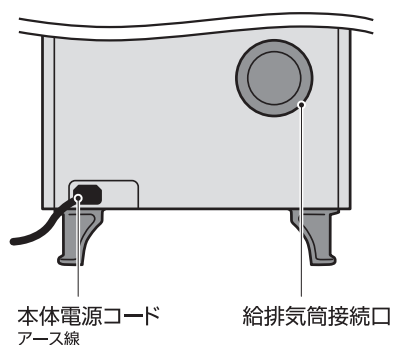
熱交換パイプ図



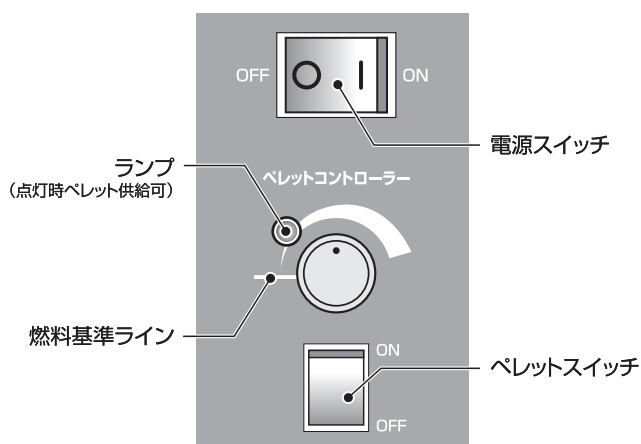
内部図



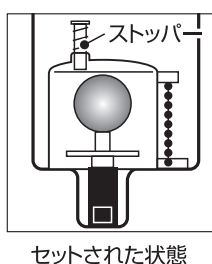
裏面図



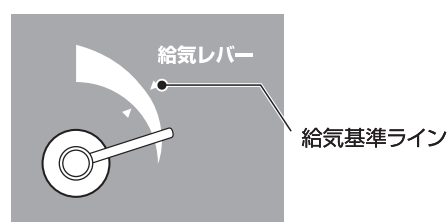
操作盤図



感震自動消火装置図

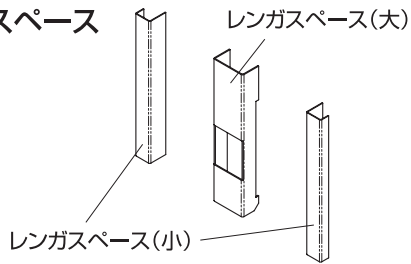


給気レバー図 (SS-10のみ)



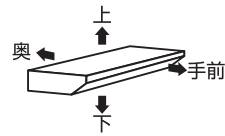
1.内 容 物

レンガスペース

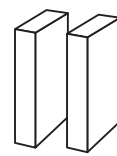


耐火レンガ

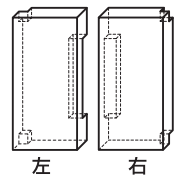
・天面レンガ



・側面レンガ



・背面レンガ



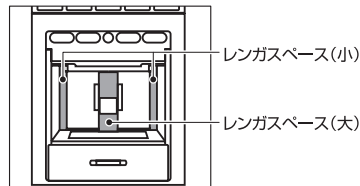
	SS-5	SS-5 Plus	SS-10
燃焼ポット [内]・[外]	[内] [外]	[内] [外]	[内] [外]
灰受け			

2.内容物取り付け方法

レンガスペース

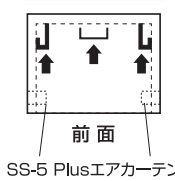
レンガスペースを右図のようにセットします。

【正面図】

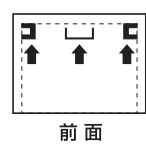


【上面図】

SS-5・SS-5 Plus



SS-10

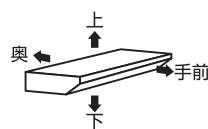


耐火レンガ

耐火レンガを番号の位置にセットします。

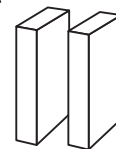


①天面レンガ



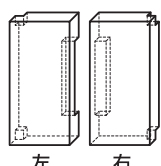
切りかき部を手前にして設置してください。

②側面レンガ



※SS-5・SS-10
手前からスライドして差し込みます。
※SS-5 Plus
上部から先に差し込みます。

③背面レンガ

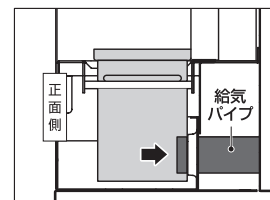
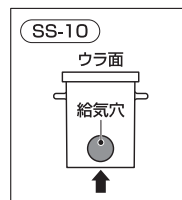
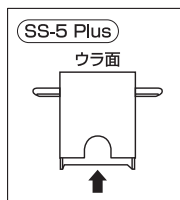
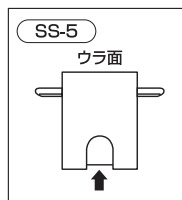


※上部から先に差し込みます。

燃焼ポット [外]

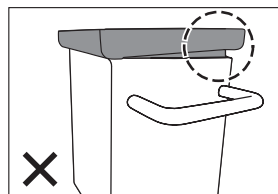
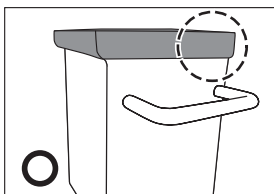
「SS-5」「SS-5 Plus」
半円の切込みのある面を奥に向けてセットします。

「SS-10」
給気穴のある面を奥に向けてセットします。



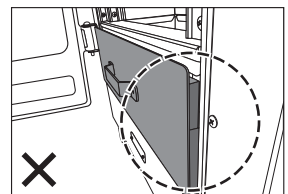
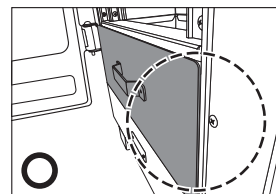
給気穴に給気パイプが入るように、押し込んでください。
取り外す時は、手前に引いてから引き上げてください。

燃焼ポット [内]



燃焼ポット [外] との間に隙間が生じている。

灰受け



本体との間に隙間が生じている。

■木質ペレット燃料について

木質ペレット燃料には、原材料による違いと、製造工程による物理的性質の違いがあります。性質によって燃料投入量、燃焼状態、燃焼後の灰・ススの残り方に違いが出ます。

原料による違い

- 製材くず(おが粉)などの木部からつくられたもの
- 間伐材などの樹皮と木部からつくられたもの

製造工程による物理的性質の違い

- 粉になりやすさ
- 長さや径の大きさ
- 水分の割合

保管方法

直射日光のあたる場所では保管しないでください。結露の原因となります。
雨風のあたらない屋内で保管してください。
結露や湿気、水分を多く含んだペレットを使用すると、不完全燃焼や故障の原因となります。

⊘ 禁止

次のペレットは燃焼不良や故障の原因となりますので、使用しないでください。

⊘ バークペレット(樹皮ペレット)使用禁止

灰分が多いため燃焼ポットが詰まり、不完全燃焼の原因となります。

⊘ 粉の多い(粉化度が高い)ペレット使用禁止

ペレット送り部入口に粉が詰まり、ペレットを送ることができなくなったり、ペレット送り部で粉が詰まり、破損する原因となります。

また、ペレット投入口など燃焼炉内に付着しやすいため、こまめなお手入れが必要です。

⊘ 極端に長いペレット使用禁止

ペレット送り部やペレット投入口で燃料をせき止め、送り出されにくくなります。

⊘ 水分の多い(含水率が高い)ペレット使用禁止

灰・ススが多くなり、燃焼ポットが詰まり、不完全燃焼の原因となります。

⊘ 建設廃棄物由来のペレット使用禁止

化学成分(特に塩素)が燃焼によりガス化し、サビや故障の原因となります。

※排気ガスからダイオキシンが発生することもあります。

⚠ 一部の輸入ペレットに注意

・2011年、ベトナム産のペレットから、規格に外れた塩素や臭素が検出され、ストーブの損傷に繋がりました。

※建築廃材(防腐剤入り)から作られたペレットです。

・一部ホームセンターで販売されている輸入ペレットにおいて、極端に灰分の多い樹種が使用されており、着火後短時間での燃焼不良に繋がりました。



本製品には、一般社団法人 日本木質ペレット協会が定めた「ペレット品質基準」に適合した木質ペレット燃料を推奨しています。

詳しくはお買い求めの販売店にお問い合わせいただくか、日本木質ペレット協会 <https://w-pellet.org>をご覧ください。

■安全装置

1. 感震自動消火装置

はたらき

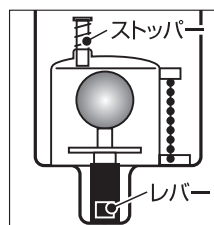
地震での大きな揺れ(約震度5以上)や、強い振動・衝撃を受けた場合に作動し、火災などの危険を防ぐためにペレット燃料の供給を停止させます。燃焼ポット内のペレットが燃え尽きて消火します。

※再度使用する際には感震自動消火装置をセットしなおす必要があります。

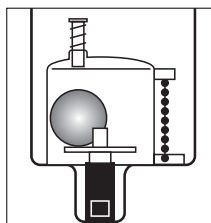
❗ セットしなおす前に必要な確認

- 給排気筒にゆるみや外れがないこと
- 扉や燃料タンクふたがしっかり閉まっていること
- 排気出口やストーブの周囲に可燃物や障害物がないこと

セットの方法

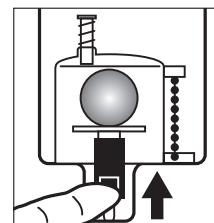


セットされた状態



鉄球が落下した状態
(ランプ消灯・燃料供給停止)

【作動したら…】
強い振動・衝撃や
間違っって触れて作
動した場合は次の
方法でセットし直
してください。



レバーを押し上げる
(ランプ点灯・燃料供給可能)

2. 過熱防止装置

はたらき

異常燃焼や、なんらかの原因で異常過熱した場合に作動して、警報ブザーが鳴ります。火災などの危険を防ぐために燃料供給を停止させます。警報ブザーが鳴ったら電源スイッチを「OFF」にして再着火の前に下記の項目を必ず確認してください。

⊖ 電源プラグは絶対に抜かないでください。排気をするためのファンが停止し、煙が充満し大変危険です。

❗ 再着火の前に必ずおこなう確認

- 熱交換パイプが灰・ススで詰まっていないこと
- 燃料タンクふたが完全に閉まっていること
- 吸気口アミがホコリで詰まっていないこと
- ストーブ前面が障害物でふさがれていないこと
- 給排気筒が灰・ススで詰まっていないこと
- 排気出口が障害物でふさがれていないこと

灰・ススが詰まっている場合は、P14・P16のお手入れ方法にしたがい清掃してから再着火をおこなってください。

確認、清掃をおこなっても警報ブザーが鳴る場合はお買い求めの販売店へご連絡ください。



強風により排気が押し戻されて過熱防止装置が作動した場合は、強風がおさまるまで再着火はしないでください。燃料タンクへの熱影響が広がりタンク内のペレットが燻され、室内に白煙や焦げたニオイが流入したり発火するなど大変危険です。

■設置後初めて使用する前に必ずご確認ください

弊社指定販売店による取扱説明、および保証書（ストーブ設置完了チェックリスト）の手続きが終わらないうちは、絶対にストーブの使用はしないでください。

取扱説明

設置後、お買い求めの販売店より保証書（ストーブ設置完了チェックリスト）に基づき、取扱説明を受けてください。誤った使い方で使用すると、思わぬ事故や火災になる可能性があります。

慣らし運転

塗料を焼き付けるために、適正最大火力で6時間以上連続燃焼してください。慣らし運転中は、塗料が焼けるにおいと、白い煙が出ます。必ず窓を開けて換気をしながらおこなってください。

次のような現象は故障ではありません。

●煙やにおいがでる

…塗料やけ、ホコリやけのにおいです。窓を開けて換気をしてください。
シーズン初めの燃焼で同じような現象がおこる可能性があります。

●燃焼開始時や、消火後に「ピシピシ」と音がする

…本体内部が熱により膨張、収縮することによって音がすることがあります。
時間経過とともに音は消えます。

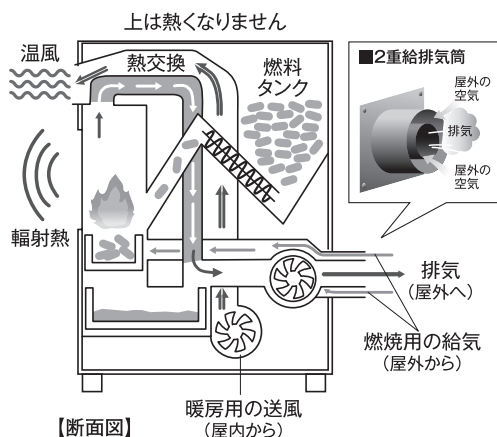
●なかなかペレットが落ちてこない

…燃料タンクが、空の状態でも燃料を補充した場合、燃料が出てくるまで10分前後時間がかかる場合があります。

●長時間待ってもペレットが出てこない

…安全装置（感震自動消火装置）がはたらいている可能性があります。
P8に従いセットをおこなってください。

ペレットストーブの構造



■ご使用前の確認と準備

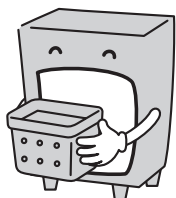
1.着火前のストーブのお手入れ



灰・スス飛散軽減のコツ!

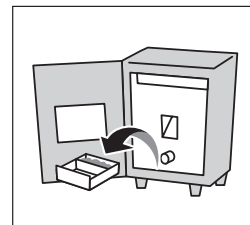
扉を開けてお手入れする時は、電源スイッチを「ON」にしてペレットコントローラーを燃料基準ライン以下まで回し切り、排気ファンが回っていることを確認してください。飛散した灰の一部が排気ファンに吸われ室内への灰・ススを軽減できます。

- ① 燃焼ポット内に溜まった灰・ススを取り除きます

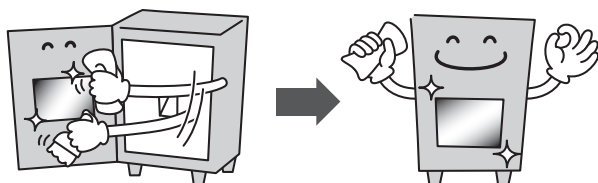


ポットの灰・ススは毎日捨ててね!

- ② ペレット投入口に付着した灰・ススや木くずを硬めのブラシなどで取り除き、灰受け内にたまった灰・ススを取り除きます



- ③ ガラスの灰汚れをきれいに拭き取ります



2.排気出口の確認

- 給排気筒の出口に可燃物がある場合は取り除いてください。
- シーズンオフ時にエンドキャップ(オプション品)を取り付けている場合は取り外して、排気トップ(標準品)を取り付けてください。

3.燃料供給

- 燃料タンクのふたを開けて、燃料タンク上面2cm付近までペレットを投入し、平らになるようにペレットをならします。

- ⊘ 燃料タンク容量以上入れたまま使用すると、燃料タンクふたが閉まらず異常燃焼や火災の危険がありますので絶対に容量以上入れないでください。

- ! 燃料タンクのふたは確実に閉めてください。



燃料タンク容量 12kg



燃料タンク容量 24kg

⚠ 燃焼中にペレットを補給する場合は、ストーブ前面や枠上部前面などが高温になりますので、やけどに注意してください。

4.感震自動消火装置の確認

- 感震自動消火装置の鉄球が落ちていないとペレットが投入されません。鉄球がセットされていることを確認してください。

鉄球が落ちていた場合は、P8 に従いセットをおこなってください。

■ご使用方法

着火動画公開中



動画は
こちらから!

1.着火方法

⊘ 着火中に扉を開けて、手やスコップなどでペレット燃料を燃焼ポットに補充しないでください。

- ① 扉を開け燃焼ポット[内]・[外]をしっかりセットします。
- ② 操作盤のペレットコントローラー(右上図参照)を燃料基準ライン以下まで回し切っているのを確認し、電源スイッチとペレットスイッチを「ON」にします。

※SS-10の場合、給気レバー(右下図参照)は給気基準ラインに合わせてください。

- ③ 着火材を燃焼ポットの中心にセットしてペレットをひとにぎり入れます。
- ④ 柄の長いライターで着火材に火をつけます。

- ⑤ 着火材全体に火が広がり、ペレットに燃え移ったことを確認したら扉をゆっくり閉めます。

⚠ 着火材全体に火が広がらない状態で扉を閉めると、ペレットが焦りやすく着火ミスの原因となります。

- ⑥ ペレットコントローラーを燃料基準ラインを目安にして、ペレット燃料が少量出てくる位置に合わせます。

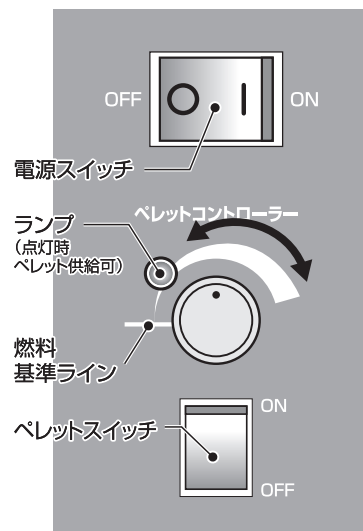
- ⑦ 5分程度そのまま待つと、投入されたペレットに火が燃え移ります。

⚠ SS-10の場合、給気の量により着火しない場合は、給気レバーの給気基準ラインを目安に調整してください。

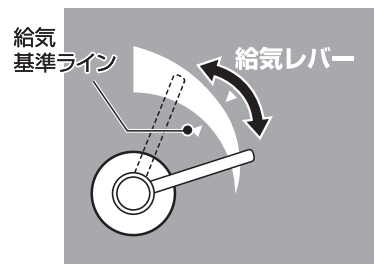
- ⑧ 燃焼ポット内の火が立ち消えしないくらい大きくなったら、ペレットコントローラーを先ほどより少し時計回りに回し、ペレットの投入量を増やしていきます。

- ⑨ 燃焼炉内の温度が高くなる(50℃以上)と自動的に温風ファンが作動し、温風が前面から吹き出します。

操作盤図



給気レバー図 (SS-10のみ)



⚠ 着火材の火が、落下してきたペレットに完全に燃え移るまでストーブの前から離れないでください。着火不良や不完全燃焼の状態が継続されてしまうと、黒煙の発生や大きな衝撃をともなう着火による事故などが発生する可能性があります。大変危険です。

※着火不良や不完全燃焼が発生した場合の燃焼炉内の状態は、P20「安全・快適にご使用を続けるために 3.着火時に注意するポイント」をご確認ください。

2.はじめは大きく燃焼してください(適正最大火力)

- 温風が吹き出したら、1時間以上適正最大火力で燃焼し、しっかりと燃焼炉内を温めてください。



大きすぎる



小さすぎる



燃焼炉内を十分に温めるメリット

適正最大火力で燃焼させることで燃焼炉内をしっかり蓄熱させ、十分な能力を発揮させることができます。

適正火力より大きい火力で燃焼を続けると不完全燃焼となりガラスや燃焼炉が黒くなったり、排気出口から黒煙が出る原因となります。着火開始から小さめの火力で燃焼を続けると、燃焼不良によって十分な暖房能力を発揮できません。

3.温度調整方法

●温度調整はペレットコントローラーでおこないます。

送り出す量はペレットによって異なります。(P7参照) 燃焼状態を確認しながら調整してください。

※SS-10はペレットコントローラーと給気レバーでおこないます。

ペレットコントローラーは燃料投入量を無段階で調節します。

※コントローラーを燃料基準ライン以下に回した状態では継続燃焼できません。

設計燃料
投入量

【SS-5】約0.5kg/時間 ～ 1.7kg/時間

【SS-5 Plus】約0.5kg/時間 ～ 1.54kg/時間

【SS-10】約1.0kg/時間 ～ 3.2kg/時間



⚠ 炎が大きく、炉内の天井に当たり炎がそり返っている

⚠ 赤黒く燃え、黒煙が発生している

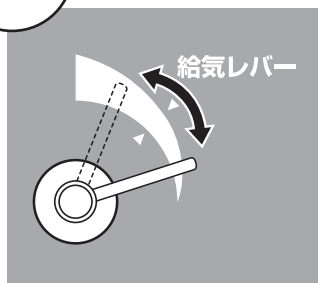
➡ ペレット投入量が多すぎますので、少なくしてください。
不完全燃焼するおそれがあります。

⚠ 炎が立ち消えする

➡ ペレット投入量が少なすぎます。

SS-10
のみ

給気レバーの使い方



燃焼を安定させるため、給気量を調節するレバーがあります。

このような時に調節してください。

大燃焼で、ガラスが黒く曇りやすい

➡ 給気量 多く ⇨ 反時計回りに回す

大燃焼で、排気口から黒煙が出る

➡ 給気量 多く ⇨ 反時計回りに回す

小燃焼で、炎が上がらず、立ち消えしそう

➡ 給気量 少なく ⇨ 時計回りに回す

4.消火方法

電源スイッチとペレットスイッチを「OFF」にします。

燃焼ポット内に残ったペレットが燃え尽きて消火します。

※ペレットコントローラーとペレットスイッチは操作しなくても電源スイッチを「OFF」にすることによりペレットの供給が停止します。

※温風を送り出すファンは一定温度まで低下すると停止します。

※排気するためのファンは一定時間後に停止します。

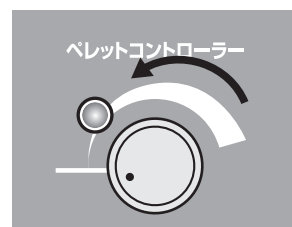
(SS-5、SS-5 plus…40分 SS-10…60分)



電源プラグはすべてのファンが完全に停止するまで抜かないでください。
ストーブが過熱し、事故や故障の原因となります。



次回着火のため、ペレットコントローラーを燃料基準ライン以下まで回し切ってください。



■お手入れ方法

1. シーズン中のお手入れ

安全・快適にお使いいただくために、定期的なお手入れが必要です。
お手入れは安全のため、手袋をしてストーブが冷めている状態でおこなってください。

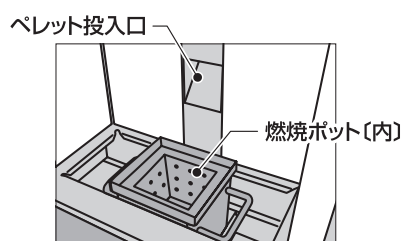


灰・スス飛散軽減のコツ！

扉を開けてお手入れする時は、電源スイッチを「ON」にしてペレットコントローラーを燃料基準ライン以下まで回し切り、排気ファンが回っていることを確認してください。飛散した灰の一部が排気ファンに吸われ室内への灰・ススを軽減できます。

毎着火時

ペレット投入口・燃烧ポット【内】

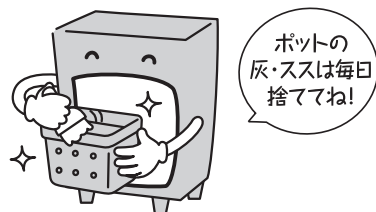


①ペレット投入口に付着した灰・ススや木くずを硬めのブラシなどで取り除きます。

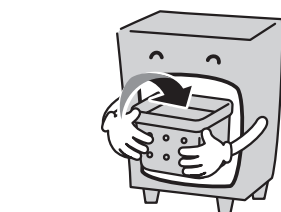
※ペレット投入口の汚れの状態は、P20「安全・快適にご使用を続けるために 4.お手入れ時に必ず実行していただくこと」もご確認ください。



②燃烧ポット【内】を外し、溜まった灰・ススを取り除き、元の位置に戻します。



ポットの灰・ススは毎日捨ててね！



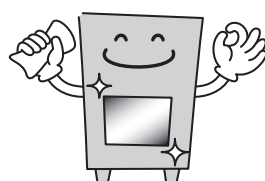
❌ 燃烧ポットの水洗いは禁止です。サビにより劣化が早まります。

毎着火時

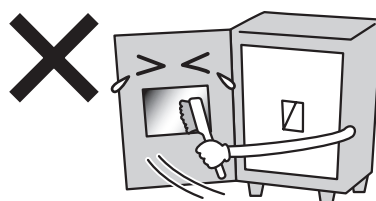
ガラス窓

濡れ雑巾で内側を拭き取ります。

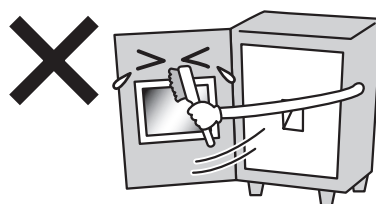
※汚れが取れにくい場合は、濡れ雑巾に燃烧灰を付けたり、市販のガラスクリーナー（薪ストーブ用）をご使用ください。



❌ 硬いブラシの使用は禁止です。



❌ 扉内側の気密用ガラスローブを硬いブラシでこすらないでください。ローブの消耗により異常燃烧のおそれがあります。



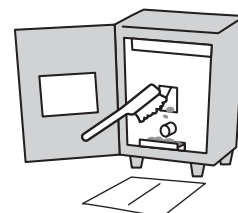
週に1回程度

灰受け

①燃烧ポット【内】・【外】を取り出します。



②燃烧炉内の灰・ススを灰受けに落とします。

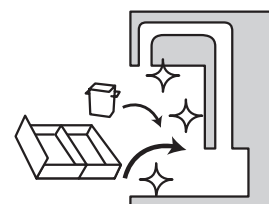


⚠ ペレット投入口付近の灰・ススや木くずもしっかり落としてください。

③灰受け内の灰・ススを捨てます。



④灰受けと燃烧ポット【内】・【外】を元の位置に戻します。



お手入で 使用するもの

- 手袋 ●雑巾 ●バネブラシ(付属品) ●やわらかいブラシ
- 使用済み歯ブラシのようなもの ●灰・ススを捨てる袋
- 新聞紙 ●スコップ

お手入れ動画 公開中

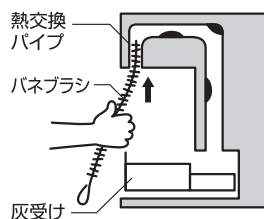


動画はこちらから!

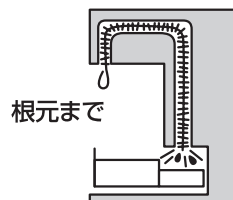
月に1回～2回程度

熱交換パイプ

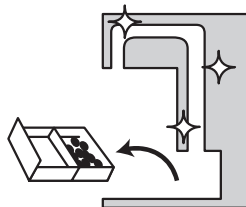
- ①バネブラシ(付属品)を熱交換パイプの手前から差し込みます。



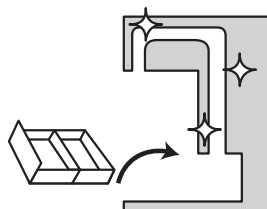
- ②バネブラシを根元まで差し込んだらゆっくり引き抜きます。



- ③灰受けに落ちた灰・ススを取り除きます。



- ④灰受けを元の位置に戻します。



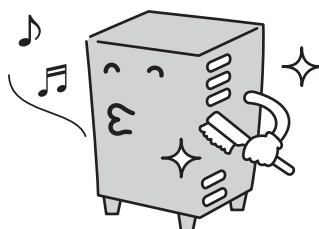
月に1回～2回程度

吸気口アミ

- ①天面吸気口アミに溜まったホコリを取り除きます。



- ②側面吸気口アミに溜まったホコリを取り除きます。

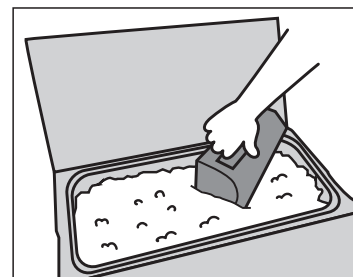


月に1回～2回程度

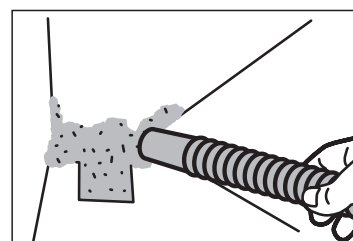
燃料タンク

- ⚠ 電源スイッチが「OFF」になっていることを確認してから作業をおこなってください。ペレット送り部の部品に手をはさまれるおそれがあり危険です。

- ①燃料タンク内のペレットを全て取り出します。



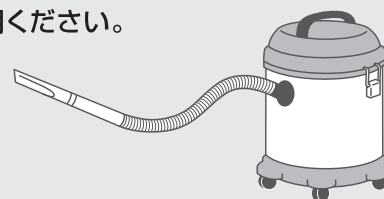
- ②燃料タンク底に溜まっている粉を集塵機で吸い取ります。



集塵機(乾湿両用掃除機)をご使用ください。



紙パック式の掃除機や家庭用掃除機、専用フィルターではないものは使用しないでください。掃除機の故障や、灰・ススが吹き出すおそれがあります。



2. シーズン終わりのお手入れ

次のシーズンも安全・快適にお使いいただくために、シーズンの終わりにストーブ本体と給排気筒内の清掃が必要です。使っていない間、たまった灰・ススが水分を吸って固まりサビや給排気不良の原因となりますので、シーズンの終わりにお手入れをおこなってください。

お手入れは安全のため、手袋をしてストーブが冷めている状態でおこなってください。

※消火直後は集塵機が火種を吸い込み、火災が発生します。



灰・スス飛散軽減のコツ！

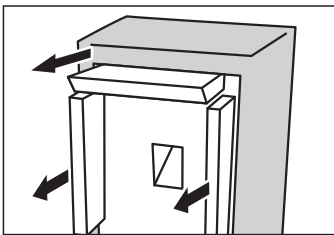
扉を開けてお手入れする時は、電源スイッチを「ON」にしてベレットコントローラーを燃料基準ライン以下まで回し切り、排気ファンが回っていることを確認してください。飛散した灰の一部が排気ファンに吸われ室内への灰・ススを軽減できます。

お手入れで 使用するもの

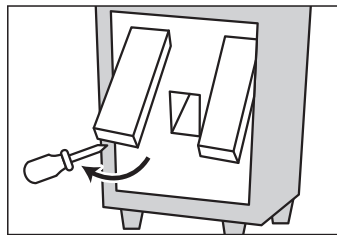
- 手袋 ●雑巾 ●集塵機 ●バネブラシ(付属品) ●やわらかいブラシ
 - 使用済み歯ブラシのようなもの ●灰・ススを捨てる袋 ●新聞紙 ●スコップ
 - マイナスドライバー ●排気筒掃除用ブラシ(オプション) ●排気筒掃除用棒(オプション)
- ※排気筒掃除用ブラシと棒は接続して使います。

まずはP13～14のシーズン中のお手入れをおこなってください。

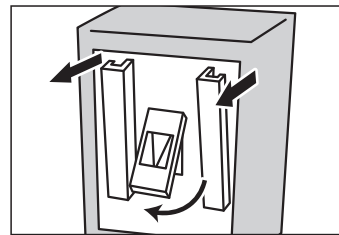
燃焼炉内の清掃



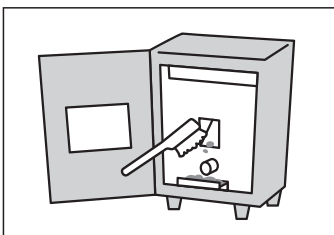
①天面、両側面のレンガを引き抜きます。
※SS-5 Plus側面は下部から抜きます。



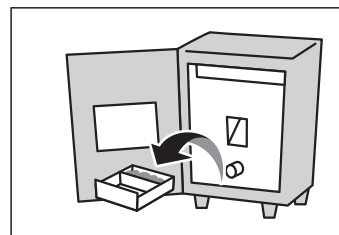
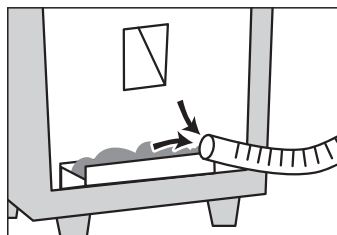
②マイナスドライバー等を下に差し入れ、背面のレンガを外します。



③レンガスペースを外します。



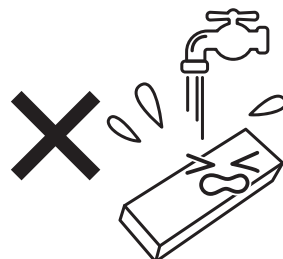
④燃焼ポット【内・外】と灰受けを外し、ベレット投入口に付着した灰・ススや木くずを使用済みの歯ブラシのようなものなどで取り除き、燃焼炉内の灰・ススを落とすか集塵機で吸い取ります。



⑤灰受け内の灰・ススを捨てます。



耐火レンガの水洗い厳禁
レンガが割れます。



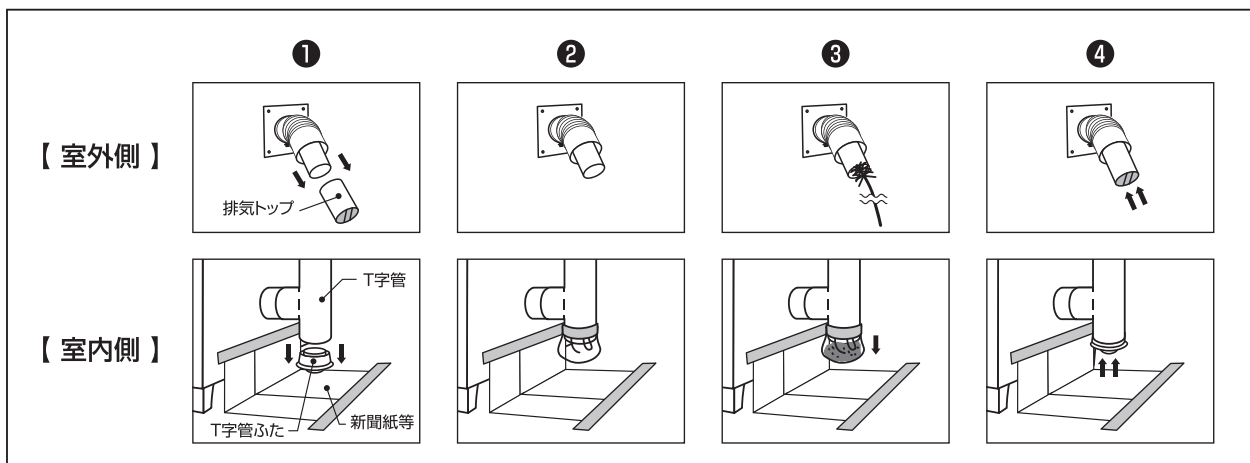
P6 の内容物取り付け方法にしたがって内容物をもとに戻します。

給排気筒の清掃



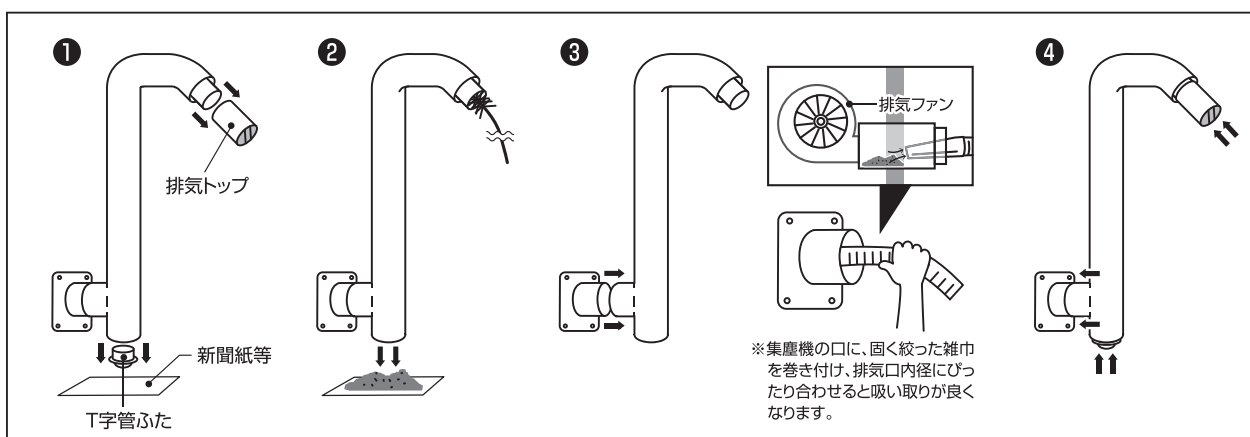
必ず電源スイッチが「OFF」であること、排気ファンが停止していることを確認して作業をおこなってください。
作動している時にブラシ等が接触すると、排気ファンが変形し故障の原因になります。

室内立上げ設置の場合



- ① 排気トップとT字管ふたを外します。
- ② T字管の端をビニール袋等で巻きます。
- ③ 排気筒掃除用ブラシで灰・ススを落とします。
- ④ 排気トップまたはエンドキャップ(オプション)とT字管ふたを取り付けます。

室外立上げ設置の場合



- ① 排気トップとT字管ふたを外します。
- ② 排気筒掃除用ブラシで灰・ススを落とします。
- ③ 給排気筒を外し、内部の灰・ススを集塵機で吸い取ります。※集塵機が排気ファンに当たらないよう注意してください。
- ④ 給排気筒を接続し、排気トップまたはエンドキャップ(オプション)とT字管ふたを取り付けます。

すべてのお手入れが終わりましたら、コンセントと本体から電源プラグを抜き、電源コードを保管してください。

※給排気筒が抜きづらい、お手入れにくい環境に設置の場合は故障やケガのおそれがありますので
設置販売店によるメンテナンスをおすすめします。

■故障かな？

修理・サービスを依頼される前に、下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現 象

原 因

- 着火しない
- 煙が充満する



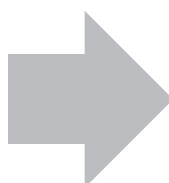
- 給排気筒のお手入れ不足
- 燃焼ポットセット不良
- 排気出口がふさがっている
- 燃焼ポット[内]の穴が詰まっている

- ペレットが落ちてこない
- 運転中に消火(立ち消え)した



- 感震自動消火装置がはたらいている
- 燃料タンク内が粉で詰まっている
- ペレットの残量が少なすぎる
- 燃料タンク内に空洞ができている
- 電源プラグが抜けている
- 電源プラグが抜けかかっている
- ペレットの投入量が少なすぎる
- 燃焼ポットセット不良

- ガラスが真っ黒になる
- 排気出口から黒煙がでる
- 警報ブザーが鳴る



- ペレットの投入量が多すぎる
- 燃焼ポットセット不良
- 熱交換パイプの灰・スス詰まり
- 灰受けの灰・ススたまり
- 給排気筒の灰・スス詰まり
- 吸気口アミのホコリ詰まり
- 燃料タンクふたが閉まっていない
- 排気出口がふさがっている
- ストーブ前面がふさがっている
- 給気量が少なすぎる(SS-10のみ)

現象と原因を確認し、処置をおこなっても改善しない場合は、消耗品や補修用性能部品が劣化・故障している可能性が高いので、お買い求めいただいた販売店へご連絡ください。

処 置	参照頁
→ 給排気筒内を清掃してください	P16
→ 燃焼ポットを正しくセットしてください	P6
→ 排気出口の障害物を取り除いてください	P2・10
→ 燃焼ポット[内]を清掃してください	P13
→ 感震自動消火装置を確認し鉄球が落ちていたらセットしてください	P8
→ 燃料タンクの底にたまっている粉を取り除いてください	P14
→ ペレットを補充してください	P10
→ 燃料タンク内のペレットを上から軽く押して、空洞をくずしてください	
→ 電源コードをコンセントと本体差込口に、しっかり差し込んでください	P4・5
→ 電源コードをコンセントと本体差込口に、しっかり差し込んでください	P4・5
→ ペレットコントローラーを時計回りに回し、少し多めに調整してください	P12
→ 燃焼ポットを正しくセットしてください	P6
→ ペレットコントローラーを反時計回りに回し、少し少なめに調整してください	P12
→ 燃焼ポットを正しくセットしてください	P6
→ 熱交換パイプを清掃してください	P14
→ 灰受けを清掃してください	P13
→ 給排気筒を清掃してください	P16
→ 吸気口アミのホコリを取り除いてください	P14
→ 燃料タンクふたをしっかりと閉めてください	P10
→ 排気出口の障害物を取り除いてください	P2・10
→ ストープ前面をふさいでいる障害物を取り除いてください	P2
→ 給気レバーを調整し、給気量を増やしてください	P12

■安全・快適にご使用を続けるために

1. 販売店による定期点検(有料)

安全・快適にご使用を続けるため、シーズンの終わりに1～2年に1回お買い求めの販売店による定期点検(メンテナンス)をお願いします。

- 定期点検をおこなっていただくことにより、消耗品や補修用性能部品の劣化を防ぐことができます。

公共施設や事業所に設置の場合は、1年に1回の定期点検が必要です。

- 日常のお手入れをおこなう方が頻繁に交代される場合や、不特定多数の方が操作される場合には安全のため販売店による定期点検が必須です。

2. 消耗品・補修用性能部品の交換

P17・18の「故障かな?」で適切な処置をしても異常が改善されない場合は、消耗品・補修用性能部品が劣化・故障している可能性が高いので、お買い求めの販売店へ次の内容をご連絡ください。

- 製品名
- 異常や故障の詳しい情報
- 保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)に記載されている製造番号とお買い上げ日

不完全な修理は大変危険ですので、部品交換や修理が必要な場合は設置販売店へご依頼ください。

消耗品・ 補修用性能部品 について

消耗品……………扉用ガラスロープ、バネブラシ、レンガ、燃焼ポット等
補修用性能部品…排気ファン、温風ファン等

ご使用状況や経年による破損、摩耗、劣化がみられる場合は適宜交換してください。
また販売店による交換が必要な部品もございます。

保有期間 について

上記消耗品の他、モーター等の補修用性能部品は生産終了後、
10年間で用意しております。

3.着火時に注意するポイント

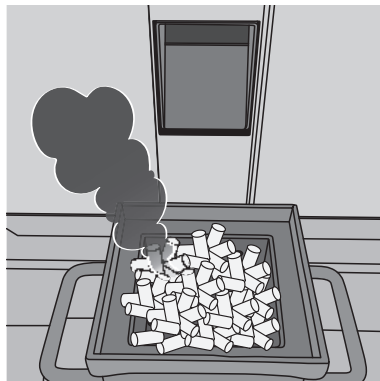
⚠ 着火時に、燃焼炉内が下記イラストのような状態だと着火不良や不完全燃焼が発生する場合があります。
※P11『■ご使用方法 1.着火方法』を合わせてご確認ください。※イラストはSS-5です。

⊘ 投入が早い



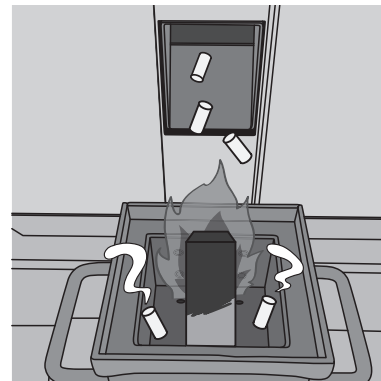
着火材全体に火が広がる前にペレットコントローラーによるペレット投入が始まると、ペレットに燃え移る前に着火材の火を消してしまいます。着火材全体に火が広がり、ペレットに燃え移ったことを確認したら扉をゆっくり閉めて、投入を開始してください。

⊘ 投入量が多い



ペレットの投入量が多すぎると、着火材がペレットを焼るだけで、着火材の火がペレットに燃え移ることができません。ペレットコントローラーで投入量を少なくしてください。

⊘ 投入量が少ない



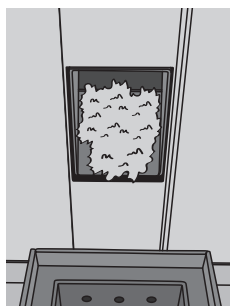
ペレットに火が燃え移っても、ペレット投入量が極端に少ないままだと立ち消えしてしまいます。燃焼ポット内の火が大きくなったなら、ペレットコントローラーで投入量を少しずつ多くしてください。

4.お手入れ時に必ず実行していただくこと

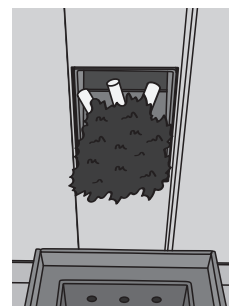
⚠ ペレット投入口が下記イラストのような状態だと、ストーブ燃焼中の炎が投入口の木くずやペレットに着火する可能性があるので危険です。

硬めのブラシなどでペレット投入口の木くずや粉をしっかりと落としてください。

⊘ 木くずが付着している状態。

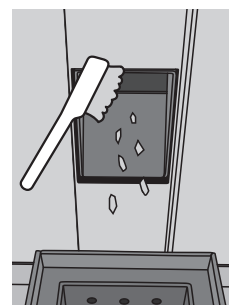


⊘ 焦げた木くずがペレットをせき止めてしまっている状態。



⚠ ペレット投入口に焦げた木くず(ガラガラしたようなもの)が付着している場合は、金ブラシやヘラなどでこそぎ落としてください。

※P13『■お手入れ方法 1.シーズン中のお手入れ』を合わせてご確認ください。



製品仕様

SS-5・SS-5 Plus・SS-10 仕様

		SS-5	SS-5 Plus	SS-10
使用燃料	ペレット種類	木質ペレット(パークは除く、6～7mm対応)		
サイズ	外形寸法	約W480×D540(排気口除く)×H770(mm)		約W530×D560(排気口除く)×H1010(mm)
	重量	約87kg(配送時は分割し、最大62kg)		約132kg(配送時は分割し、最大88kg)
構造	給排気方式	強制給排気方式(FF)		
	構造	燃焼炉・外層2層構造(扉以外の外側は熱くなりません)		
	熱交換方式	煙管熱交換方式(月1～2回の清掃が必要です)		
	蓄熱方式	燃焼炉内面に耐火レンガを組込み、高い蓄熱性能		
	燃料タンク容量 ^{※1}	12kg(最大燃焼で約7時間分)		24kg(最大燃焼で約7時間分)
暖房能力 ^{※1 ※2}	暖房目安	20畳～ ※暖房面積は建築条件により変わります。	20畳～ ※暖房面積は建築条件により変わります。	30畳～ ※暖房面積は建築条件により変わります。
	燃料投入量	約0.5～1.7kg/h(無段階調節・10kg袋で6～15時間)	約0.5～1.54kg/h(無段階調節・10kg袋で6～15時間)	約1.0～3.2kg/h(無段階調節・10kg袋で3～8時間)
	最大時熱量	6,698kcal/h(低位)	6,068kcal/h(低位)	12,608kcal/h(低位)
	暖房出力	6.6kW	6.0kW	12.5kW
	最小時熱量	1,970kcal/h(低位)		3,940kcal/h(低位)
	暖房出力	1.9kW		3.9kW
	計算	※熱量(消費カロリー)は全木ペレットの低位発熱量 3,940kcal/kgで計算 ※暖房出力は熱量×燃焼効率(85%)で算出		
操作方法	点火方式	手動点火(点火作業は1～2分)		
	温度調節	ペレットコントローラーにて、ペレット投入量を調節(無段階調節)		
電力	電源	AC 100V 50Hz・60Hz(電源コード長2m)		
	定格消費電力	70W		77W
運転音 ^{※3}	前方1m	48dB程度		46dB程度
安全装置	感震装置	手動復帰式 感震自動消火装置 搭載		
	過熱検知	異常過熱センサー 搭載(異常過熱時にペレット供給停止・警報ブザー)		
	過電流	ヒューズ 5A 2本		
	消火制御	主電源切断後、排気ファンはタイマーで自動運転		
メンテナンス	灰除去	ペレット投入口・燃焼ボット[内]を毎着火時、灰受けを1週間に1回程度(毎日8時間燃焼)		
	熱交換パイプ掃除	付属のバネブラシで月1～2回(15分程度/1回)		
	排気筒掃除	シーズン終了後、集塵機で灰・ススの吸い取り		
	吸気口掃除	天面、側面吸気口のホコリを吸い取る		
	メーカー(販売店)定期点検	使用頻度にもよりますが、目安として1～2年に1回、販売店による定期点検(メンテナンス)をお勧めします。 公共施設等の場合、販売店による年1回のシーズン定期点検(メンテナンス)が必要。		
設置	使用配管	FF2重管(外径φ110mm・内径φ75mm)		
	炉台	不要(汚れ防止用オプションあり)		
離隔距離	上	60cm(自社基準)		
	前	100cm(自社基準)		
	右横	30cm(自社基準)		
	左横	30cm(自社基準)		

※1:燃料により変わります。 ※2:住宅の気密性・構造によって変動 ※3:(参考)ルームエアコンの運転音 42～48dB(前方1m)

製品保証

3年間の製品保証

保証は「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」へのお客様の署名で発効となります。

本製品は、正しい設置工事と日常のお手入れによって安心してお使いいただけます。

■「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の説明を受け、該当する全てのチェック欄にチェックが入った状態でお客様のご署名をお願いします。

※該当する全ての欄にチェックが入ることで保証が開始します。

■ご署名いただいた「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の控えは、大切に保管してください。

■保証期間は3年間です。

※排気筒部材は保証対象外です。

※バネブラシは1年保証です。

下記の保証対象(無料修理)規定をご確認ください。

■保証は日本国内においてのみ有効です。

保証対象(無料修理)規定

取扱説明書、設置工事マニュアル、本体貼付ラベルの注意にしたがった正常な設置状態および正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店または弊社指定業者が無料修理または部品交換をおこないます。無料修理または部品交換が必要になった場合は、ご署名いただいた「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」を、お買い求めの販売店へご提示の上、詳しい症状をお知らせください。

※離島および離島に準ずる遠隔地への設置に際しては、製品保証をおこなうための出張に要する実費を申し受けます。

(見積もりの際にご提示します)

※ご転居による製品移設の場合は、事前にお買い求めの販売店または弊社までご相談ください。

次の原因による故障および事故については、保証対象となりません。ご注意ください。

1. 使用を禁止されているペレット燃料や変質したペレット燃料(P7記載)による故障や事故。
2. 取扱説明書で禁止されている誤った使用方法や不当な修理や改造による故障や事故。
3. 設置工事マニュアルで禁止されている設置工事による故障や事故。
4. お買い上げ後の弊社指定業者以外による取付場所の移動、落下等による故障や事故。
5. 火災、地震、水害、落雷、その他の自然災害、公害や異常電圧による故障や事故。
6. 指定外の電源(P21記載)の使用による故障や事故。
7. 建物以外(車両、船舶等)に使用された場合の故障や事故。
8. 設置工事マニュアルで禁止されている設置場所への設置による故障や事故。
9. 条例等に適合しない設置工事が販売店によっておこなわれたことによる故障や事故。
10. 弊社指定販売店以外の業者による取扱説明後のご使用での故障や事故。
11. 弊社指定販売店の取扱説明がない状態でのご使用による故障や事故。
12. 「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」の提示またはご署名がない場合。

※この保証は「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」に明示した期間、前述の条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従って「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または弊社にお問合わせください。

※お客様にご記入いただいた「保証書(ストーブ設置完了チェックリスト)」は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

お客様登録
はこちら!



お客様登録にご協力ください

- お客様登録は次の項目を目的に弊社製品をご購入のお客様へ登録のお願いをしています。
 1. お客様からのお問い合わせやご意見・ご要望・故障及び修理発生時の迅速な対応のため。
 2. お客様にメンテナンス等の情報提供をするため。
 3. お客様にイベントやキャンペーン、新商品の情報をお知らせするため。
- ※ご登録いただきました個人情報につきましては、上記目的以外では使用しません。



株式会社 新越ワークス エネルギー事業部

〒959-1286 新潟県燕市小関681番地
TEL(0256)64-8580 FAX(0256)63-7977

www.shin-works.co.jp
www.warmarts.jp

ISO 9001
ISO 14001
認証取得

